



スオスダイ！

（こんにちは）

主の御名を賛美いたします。私たちは、2015年3月に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招聘を頂き、主の導きとみ言葉によってカンボジアの地で宣教活動を継続しています。

近況報告

皆さまのお祈りにいつも感謝しております。8月初旬にカンボジアに戻ってから5か月が経ち、無事に2024年を迎えることができました。皆さまのお祈りとご支援により、ここまで現地での活動、生活共に守られてきました。本当に、ありがとうございます。

年明けから、能登半島での大地震、羽田空港滑走路での飛行機衝突事故、そして小倉駅飲食店街での大規模火災と、日本列島は極めて大きな困難に襲われています。私たちは、被害にあった方々に主の慰めと具体的な助けが与えられますように、祈り続けています。

以下、11月と12月に起こされた教会での出来事を中心にお伝えします。



12月31日（日）、CBUオフィス教会クリスマス礼拝にて
降誕劇をおささげした子どもたち

あなたはわたしの魂を死から わたしの目を涙から わたしの足を突き落とそうとする者から
助け出してくださった。命あるものの地にある限り わたしは主の御前に歩み続けよう。

詩編 116 : 8-9

みんなで御霊の実

11月26日日曜日、複数教会合同による子どもイベントが行われました。プノンペンと地方の5つの教会から、合計約100人の子どもたちが参加しました。イベントのテーマは「御霊の実」です。

テーマ賛美歌「御霊の実」は日曜学校でいつも賛美しており、CBUオフィス教会の子どもたちにとっては、おなじみの曲です。



「御霊の実」の工作を完成させた子どもたち

また、今回子どもメッセージの奉仕を青年スタッフのリターさんが担ってくれました。本番直前「とても緊張する」と言っていた彼女は、私たちの予想を超えて堂々と、生き生きと、み言葉のメッセージを語っていました。御霊が生きて働いてくださった真実を目にした瞬間でした。



堂々とみ言葉を語るリターさん

右の写真は工作タイムです。100人の子どもたちが一斉に「御霊の実」の工作に励む光景は、実に壮観でした。途中から、早く作り終わった子どもからキャンデーをもらえるという仕組みが加わり、子どもたちの集中力とスピードが数段アップしました。スタッフの皆さんの助けもあって、みんな工作を完成させることができました。

今日のイベントをきっかけに、9つの御霊の実が、イエス様を通して子どもたちの心の中に、育っていくことを、心から祈ります。



工作タイム。みんな一生懸命ハサミを使って作成しています。

久しぶりの再会

12月10日日曜日、教会に着くといつものように、子どもたちが出迎えてくれました。その中に、ずっと教会に来ていなかった、ダーネットさんとその妹の姿がありました。約2か月前、キリングフィールド近くの集落を訪問した時、顔を見せてくれたもののすぐに家の中に入ってしまった、あの女の子です（前号参照）。彼女はずっと、母親に代わって幼い弟や妹の面倒を見ていたので、教会に来たくても、来られなかったそうです。この日彼女は弟と妹も連れて、3人で教会に来てくれました。彼女たちを再び教会へ導いてくださった主に感謝します。



久しぶりに教会に来てくれたダーネットさん
(右から2番目の女の子)

青年たちの成長

12月の日曜学校にて、青年メンバーの1人、クリスナーさんが大活躍でした。この日初めてお祈りをしてくれた女の子が言葉に詰まった時、彼はさりげなく彼女をサポートし、「主の祈り」の賛美の時は前に出て、子どもたちを積極的にリードしてくれました。更にキリスト降誕劇の役決めでは、私たちに代わって、それぞれの役を丁寧に説明してくれました。彼は周りの状況を見て自ら考えて行動してくれるので、私たちは大いに助けられています。



子どもたちに「主の祈り」の賛美を教える
クリスナーさん

この日の礼拝では、クリスナーさん、ダービッドさん、ピリップさんが3人で、先週行われた合同子どもプログラムの証しをしてくださいました。青年たちがこのような形で証しをしてくれたのは初めてです。彼らは先週のイベントに参加して、他の教会の青年たちが奉仕する姿を見て、影響を受けたのだと思います。

これからも私たちは、できるだけ機会を提供して青年たちの成長をサポートしていければと願っています。



礼拝でスライドを用いて証しする
ダービッドさん、クリスナーさん、ピリップさん

クリスマス・プレゼント

12月24日（日）の出来事です。私たちの車が教会前の通りに入ると、すでに子どもたちが道路で遊びながら、私たちの到着を待っていました。車に気づくと、喜んで走り寄ってきます。最近、よく見る光景です。車から降りると、子どもたちが我先にと私たちに近付き、あっという間に囲まれてしまいました。すると、皆が声をそろえて

「先生！目を閉じて…」

目を閉じた次の瞬間

「メリー・クリスマス！！」

そう言って、リボンのついた、小さな化粧箱が次々に私たちの手の中に置かれました。

「ネアックルー（先生）いつもありがとう！」

なんと子どもたちが私たちに、プレゼントを用意してくれていました。



サプライズでクリスマスプレゼントをくれた
子どもたち

帰ってからその小さな化粧箱を1つ1つ開けてみると、入っていたのは、小さな髪留めや小さなアクセサリ、小さな消しゴム、手作りのお星さま、そして、お手紙まで入っていました。

一つ一つのプレゼントを手にし、手紙を読みながら「あの子どもたちは、どうやってこれらを準備したのだろう」と思わずにはいられませんでした。

確かなことは、彼女たちは、有り余る中からくれたのではなくて、時間を見つけては手作りしたり、一生懸命集めたり、誰かからもらって、大切にしておいた物の中から、私たちにくれたということです。

子どもたちに囲まれ、手にした溢れるほどのプレゼント。それは、子どもたちと共に感じたイエス様の愛であり、子どもたちを通して、イエスさまから頂いた贈り物です。

子どもたち、ありがとう。

イエス様、ありがとう。



リボンのついた可愛い小さな箱には、
いろんな物が入っていました。



天使がマリアに現れた場面
青年たち（右側）はハンドベルとリコーダーを担当

青年スタッフのリターさんは、演技の指導はもちろん、セリフがなかなか覚えられない子を励ましたり、子どもたちにいつも寄り添って助けてくれました。親御さんたちが何人か、クリスマス礼拝に初めて参加され、子どもたちの演技を見守ってくれました。演劇を通して、イエス様がこの世に来られた喜びが、きっと伝わったことでしょう。

礼拝の最後、子どもたちにとって待ちに待った、プレゼントの時間です。普段教会に来ていて、事前に登録した子どもたちだけがもらえることになっていました。しかしプレゼントを順番に渡していくと、なんと、今日初めて来た子、久しぶりに来てくれた子にも行きわたるだけの、十分な数のプレゼントがありました。イエス様が子どもたち全員を祝福し、用意してくださったプレゼントでした。

ありがとう、イエス様。

CBUクリスマス礼拝

12月31日、今年最後の日曜日、CBUオフィス教会では、一足遅くクリスマス礼拝が行われました。礼拝にて、去年に続き2回目のキリスト降誕劇をおささげしました。

12月に入ってから、子どもたちは毎週、降誕劇の練習を続けてきました。天使、ヨセフとマリア、羊飼い、羊、博士の役者となった子どもたちは一生懸命セリフを覚えてくれました。最初は早口で声が小さかったのですが、練習を繰り返して、大きな声で、堂々とセリフを言えるようになってきました。青年たちは、去年は時間がなくてできなかったリコーダー演奏を教会や家で練習し、短い期間で仕上げてきてくれました。



初めてきた子ども、久しぶりの子どもも
みんなプレゼントをもらうことができました。

日本語クラス、その後

11月1日、2回目の日本語クラスでは、子ども、青年合わせて、総勢12名の生徒が参加してくれました。授業の前半に会話の練習、後半に文字の練習を行います。今回気づかされたことは、子どもと青年を1つのクラスでいっしょにやるのは難しい、ということです。内容を子どもたちに合わせると、青年たちには物足りなくなってしまう。次回以降は子どもと青年、2つに分けてクラスを行うことにしました。

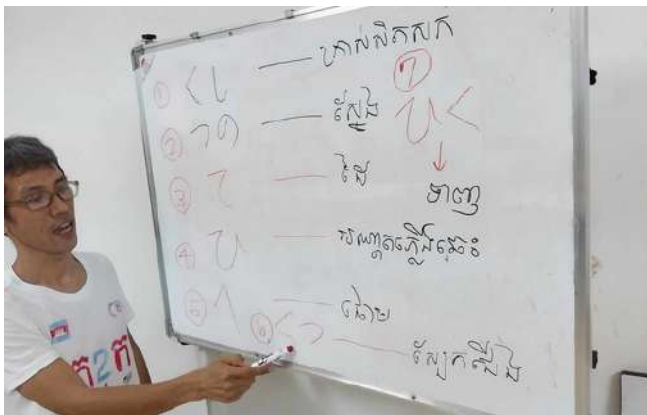


2回目の日本語クラス

12名の生徒が参加してくれました。

フェイスブックを通して教材の情報を頂いていますので、幾つかの教材を試しています。まだまだ始まったばかりで、試行錯誤の段階です。

授業が進んできたら、日本のアニメを取り入れたり、そしてもちろん、聖書のみ言葉を題材にしたいと思っています。何故なら、ここは単に日本語を教える場ではなく、み言葉を伝える機会でもあるからです。また、生徒の中から近い将来、日本に行く青年が出てくることを祈っています。



クメール語も使いながら説明します。

女性支援ミニストリー 「希望の糸」

マクラメアートを用いた女性支援ミニストリー「希望の糸」を祈りに覚えてくださりありがとうございます。11月、12月にはバザーなどで、いくつかの教会にご購入いただきました。購入してくださった皆様、本当にありがとうございました。これからも、教会を中心に、もっと多くの方々に「希望の糸」が広がっていくことを願っています。



活動の前、毎回み言葉を読み、お祈りをしてから始めます。

10月からミニストリーに加わったスレイモムさんは、ケマさんに教わってみるみる上達し、十字架、ハートなどの作品を作ることができるようになりました。

現在、日本だけでなくプノンペンでも地元の方々や観光客などに購入いただけるように、製品を取り扱ってくれるお土産屋さんやカフェを探しています。引き続き、お祈りいただければ幸いです。



ケマさん（左）スレイモムさん（中央）作品の編み方について話し合っています。

来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内の「ホープインターナショナルスクール」に通っています。11月26日、スポーツイベント「クロスカントリー」（マラソン大会）が行われました。中学校3年の来主は4km、小学校6年の栄主は3kmを走りました。それぞれ上位入賞を果たし、後日予定されていたインター校同士によるマラソン大会の代表にも選ばれました。



中学3年生の来主（向かって左から3番目）
スタート直後の地点にて



小学6年生の栄主
折り返し地点にて

ホープスクールは12月中旬で前期が終了し（前期、後期の2学期制です）ました。8月の前期開始からここまで、来主、栄主は学業、スポーツそれぞれ充実した生活を送ることができました。皆さまのお祈りに心から感謝しています。

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって成長していくように。
2. キリングフィールド近くのコミュニティと近隣地域が、福音によって変えられるように。
3. 女性支援活動「希望の糸」が祝福され、ケマさんら女性たちへの支援が広がりますように。
4. 活動や生活のための必要、二人の子ども（来主、栄主）の学費の必要が満たされるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫（CBU宣教師）、来主（くろす、15歳）、栄主（えいす、11歳）

（連絡先） Eメールアドレス dekakurosu3927@gmail.com

携帯電話：050-5435-4350（日本から発信可）

（献金振込先） 楽天銀行 ノエル支店（支店番号 246）

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

